



TITLE:

静脩 Vol. 29 No. 2 (1992.9) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 29 No. 2 (1992.9) [全文]. 静脩 1992, 29(2)

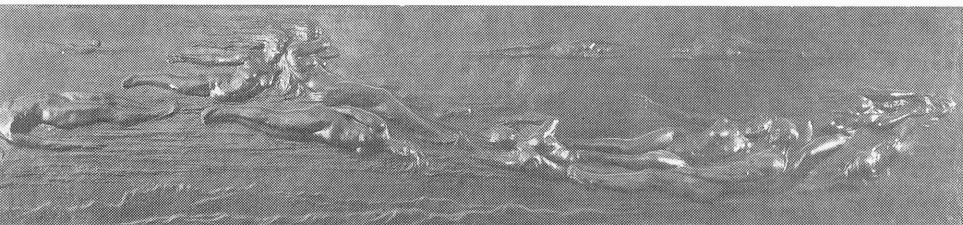
ISSUE DATE:

1992-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66005>

RIGHT:



静脩

1992年 9 月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 29, No. 2

チベット大蔵経

文学部教授 御牧克己

京都大学附属図書館に所蔵されているナルタン版チベット大蔵経を一昨年以來学生さん達に手伝ってもらって整理し始めたが、それも一段落し、電算機入力も完了した。また、本年6月16日に同図書館で開催された「近畿地区国公立大学図書館協議会総会」に於てその成果の一部をご披露する機会も与えられた。同主題については専門家を対象として以前に草する機会があったので、ここではむしろ専門家以外の人にもチベット大蔵経とはどういうものか、そのアウトラインを知って頂くために覚書程度のものを残しておきたい。

我が国でチベットと云うと電気すら通っていない山奥の辺鄙な未開地といった語感が強く、京都府下へ引っ越した友人から「ついに日本のチベットへ引っ越すことになった」というような案内状を受け取って、チベット最良の私は腹を立てたりする。確かに地理的・物理的には不便で未開の面が多いかも知れないが、文化的な面では、瞑想時の心の分析など、精神的な面を描写する用語は実に豊富で、日本語と外国語とを問わず近代語に翻訳する際には対応する訳語の貧困を痛感させられる。チベット大蔵経の存在も過去の文化の高さを示す好例と言えるだろう。チベットへ仏教が入るのは我が国に比べて約一世紀程遅れた7世紀頃であるが、自国の言葉に翻訳された大蔵経というも

のをついに持たなかった我が国に比べてチベットは自分達の言葉に訳された大蔵経を、しかも幾種類も編纂した。文化的に低いなどとはとても云えないのである。

チベット大蔵経は、上にナルタン版チベット大蔵経と云ったように、頭に版本の名前を冠することが普通である。ナルタン版以外によく知られるものでは、北京版、チョネ版、デルゲ版などがある。これらは17、18世紀に開版される四大チベット大蔵経として名高く、ナルタン等は全て大蔵経が印刻された地名を示している。

チベット人は大蔵経を分類する際に、漢訳大蔵経のように三蔵（経・律・論）という分類を採用せず、カンギェル（「仏説の翻訳の意」）・テンギェル（「論書の翻訳の意」）という分類を採用し、前者には經典そのもの、後者には注釈・論書を収めている。

チベット仏教史を大きく分けるモメントは10世紀を境とする仏教前期伝播期と後期伝播期という概念である。前期伝播期から仏典の翻訳は盛んに行われており、『翻訳名義大集』（814年頃）といった仏典翻訳のためのサンスクリット・チベット語語彙集や『デンカルマ目録』（824年頃）といった翻訳仏典目録等、後のチベット大蔵経の先駆けとなる動きは既に前期伝播期に存在したと言える。

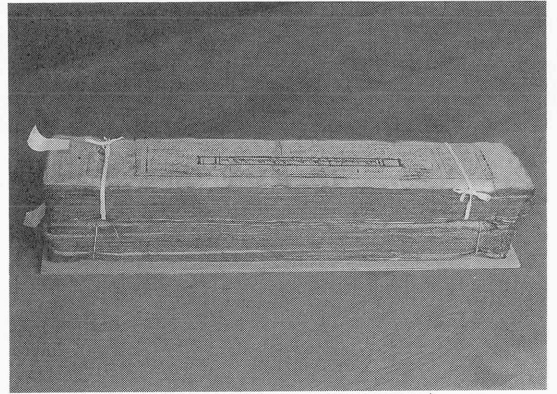
しかし、チベット大蔵経が現在我々が見るのに近い形で編纂されるには、後期伝播期に入ってから既に2、3世紀を経た14世紀初めの所謂「旧ナルタン大蔵経」の確立まで待たねばならない。

それには当時のナルタン寺のチョンデンリクレル、ジャンペーヤン、ウパロサルという三人の僧に負うところが大きい。とりわけジ°の果たした役割は顕著である。三人は師弟関係にあった。ジ°はチ°の弟子であり、ウ°の先生であった。ウ°はまたチ°の弟子でもあった。ジ°はある月夜にふざけて悪魔のお面を被り先生チ°を驚かせようとしたところ、先生は本物の悪魔が出たと思い、ナルタン寺中を逃げ回るに至る。事の真相が発覚した時、チ°は烈火の如くに怒り、為にジ°はナルタン寺に居れず、サキャ寺に移らざるを得なくなった。しかし徳が高かったとみえて、元朝第四代仁宗ブヤントウカン(普願篤汗：在位1311-1320)の招きを受けてそのラマとなって元朝の宮廷に迎えられる。そしてそこから師のチ°に支那墨・筆写具一式を始めとする贈り物を贈って和解を求める一方、弟子のウ°にも同様のものを贈ってナルタン寺に大蔵経を確立するように指示した。ウ°はもともとナルタン寺にあったものに加えて諸方からオリジナルやコピーを蒐集し、ナルタン寺の文殊堂に安置した。これが「古ナルタン大蔵経」である。版本ではなく、写本であったことに注意する必要がある。この大蔵経は残念ながら散逸して現在伝わらないがその後に作成される諸々のチベット大蔵経の基になる点で大変重要である。

最初の版本による大蔵経は、明の永楽帝により1410年に開版(永楽版)され、次いで万暦帝によって1605年に覆刻される(万暦版)。チベットに於ける最初の版本大蔵経は1621年に開版されるジャン版であるが、これは後に版木がリタンに移されるためにリタン版とも呼ばれている。これらの大蔵経はカンギュルのみを持つものであった。

そして以上の諸版が前段階となって、上述したカンギュルとテンギュルの両方を具えた四大チベット大蔵経が17世紀末から18世紀前半にかけて開版されるに至るのである。因みに、上述の本学所蔵のナルタン版大蔵経は、カンギュルが1732年に

テンギュルが1742年に開版された。



チベット大蔵経の内容を、カタログ、実物共に一番参照が容易な北京版によって一覧するならば次の如くである。(数字は各テキストに付された番号を示す。)

-
- | | |
|---|------------------------------------|
| ↑ | 1. 秘密部 (rGyud) 1-729 |
| カ | 2. 般若部 (Sher phyin) 730-759 |
| ン | 3. 宝積部 (dKon brtsegs) 760 |
| ギ | 4. 華嚴部 (Phal chen) 761 |
| ユ | 5. 諸経部 (mDo sna tshogs) 762-1029 |
| ル | 6. 戒律部 ('Dul ba) 1030-1055 |
| ↓ | |
-
- | | |
|---|-------------------------------------|
| ↑ | 7. 讃頌部 (bsTod tshogs) 2001-2063 |
| | 8. 秘密疏部 (rGyud 'grel) 2064-5183 |
| | [9~22. 経疏 (mDo 'grel)] |
| | 9. 般若部 (Sher phyin) 5184-5223 |
| | 10. 中観部 (dBu ma) 5224-5480 |
| テ | 11. 諸経疏部 (mDo tshogs 'grel pa) |
| ン | 5481-5520 |
| ギ | 12. 唯識部 (Sems tsam) 5521-5586 |
| ユ | 13. 阿毘達磨部 (mNgon pa'i bstan bcos) |
| ル | 5587-5604 |

14. 律疏部 ('Dul ba'i 'grel pa)
5605-5649
15. 本生部 (sKyes rabs) 5650-5657
16. 書翰部 (sPring yig) 5658-5699
17. 因明部 (Tshad ma) 5700-5766
18. 声明部 (sGra rig pa) 5767-5794
19. 医方明部 (gSo ba rig pa) 5795-5801
20. 工巧明部 (bZo rig pa) 5802-5819
21. 修身部 (Thun mong ba lugs kyi
bstan bcos) 5820-5831
22. 雑部 (Ngo mtshar bstan bcos)
5832-5962
23. 目録部 (dKar chag)

カンギュルの最初の秘密部には密教經典が含まれている。続く般若部、宝積部、華嚴部は夫々般若經、宝積經、華嚴經を含み、次の諸經部はそれ以外の經典を含んでいる。戒律部は読んで字の如く律典から成る。テンギュルに移って、最初の讃頌部は讃仏文学である。秘密疏部は密教經典に対する注釈である。般若部はカンギュルのものと同じ名前を持つが、カンギュルのものはお経そのもの、テンギュルのものはその注釈であるという点が相違する。中観部には「空」の哲学を標榜する



中観学派の諸論書が、諸經疏部には諸經典に対する諸注釈が、唯識部には唯心論の哲学を論ずる唯識学派の諸論書が集められている。次の阿毘達磨部は範疇論的实在論の立場をとる阿毘達磨哲学の諸論書を、律疏部は律典に対する注釈を含んでいる。本生部は所謂ジャータカと呼ばれる仏陀の前世の物語（前生譚）を中心とする文学作品から成り、書翰部は手紙・教訓・金言の類を、因明部は論理学書を、声明部は文法学・言語学書を、医方明部は医学・薬学書を、工巧明部は工芸・技術・天文・暦数の類を、修身部は処世術・占い・政治術の書物を含んでいる。雑部にはごく僅かではあるが、インド論書の翻訳ではない、チベット人自身の著作が含まれており、目録部が全体を締め括っている。このように仏教の經典や論書が大部分を占めているが、仏典以外の医学書や天文学書も多く含まれ、仏教学者以外の研究者の出現が期待される所以である。

以上はチベット大藏經について必要最小限の情報を列挙したに過ぎないが、さらに詳細に興味を持たれる方のために以下の二論文を参考として掲げておきたい。1) 拙稿「チベット語仏典概観」、『チベットの言語と文化』（冬樹社、1987）pp. 277-314；2) 今枝由郎「チベット大藏經の編集と開版」、『岩波講座・東洋思想』第11巻、1989, pp. 325-350。チベット大藏經の歴史・内容等について論じた書物・論文は国の内外を通じて夥しい数に上るが、それらのほとんどはこの二論文中に研究史を踏まえた上で網羅されている。

平成4年度展示会のお知らせ

来る12月1日(火)から7日間(予定)、附属図書館展示ホール(3F)において「翻訳に見る江戸期の学問」(仮称)をテーマとして標記展示会を開催します(一般公開・無料)。江戸期に翻訳され、刊本や写本として流通した辞書、解剖、舎密学等の資料と我が国で初めて『ロビンソン・クルーソー』を翻訳した黒田麴廬関係の資料を原書とともに展示します。
(情報サービス課)

資料紹介

新しいAV資料がはいりました

附属図書館には語学学習用としてAVブース（VIDEO 8台、LL 10台）があります。VIDEO、LLの両者とも、英語・仏語・露語・中国語・日本語の6ヶ国語と手話（VIDEO）があり、現在、VIDEO 26種、LL 24種を利用することができます。昨年度より趣向を変え下記のようなAV資料も購入し、少しずつではありますが内容も充実してきました。新しい資料（7点）を紹介します。

① 国際会議・学会その他集会における聴く力、話す能力

今日、英語による会議や会談が増えるなか、それなりの語学力が要求されます。そこで、さまざまな会議・会合での議長・司会者及び一般スピーチの挨拶、話のきり出し方、すすめ方、結びの言葉、パネルディスカッション、論文発表等公共の場における決まり文句など約700にのぼる短文・長文の実例をもとに会合の雰囲気味わってみて下さい。

各25分×4巻

② THE CARSAT CRISIS (BBC)

科学・テクノロジー分野で英語が必要な人たちのための最新ビデオコースです。1990年のイギリスとドイツを舞台に、ある宇宙計画の危機を描いたドラマ形式で、医学品関連分野だけでなく広範囲な科学分野をカバーしているので、最新テクノロジー用語についての全般的な基礎知識を身につけることができます。（紹介パンフレットより）

90分、120分 各1巻

③ FACES OF JAPAN (TELE JAPAN U.S.A., INC)

日米スタッフの協力により、《ごく普通の日本人の日々の生活》を23のタイトルでとらえ交番日誌、受験産業、ファッションモデル、出稼ぎ農民など、現代日本の姿を海外に伝えるというコンセプトで制作された作品です。（紹介パンフレットより）

30分×23巻

④ at home in BRITAIN (BBC)

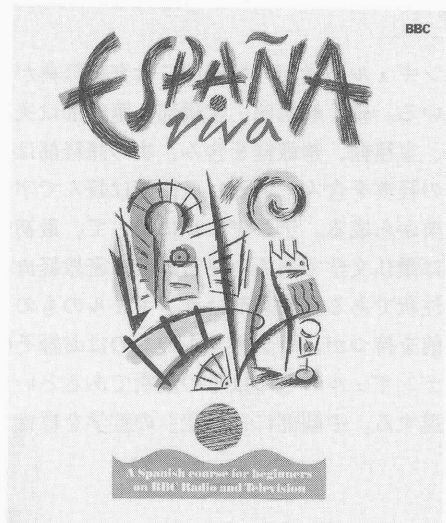
海辺の町に住むイギリス人家庭にホームステイする3人の若者の体験を、連続ドラマの形で描いたシリーズです。英国への留学を考えている人には特にお勧めしたいコースで、英国での日常生活を覗いてみるができます。（紹介パンフレットより）

60分×1巻

⑤ ESPAÑA VIVA (BBC)

国の文化と人々の生活を理解しながら学ぶ、スペイン語会話教材の最新刊です。（紹介パンフレットより）

25分×15巻



⑥ ハングンマール

日本で初めての韓国語学習ビデオテープです。この教材は韓国のソウル市で話されている標準語で発音されており、日常生活に必要な最小限度の単語を精選し、身のまわりに起こるいろいろなことを、やさしい韓国語で言えるように工夫してあります。（紹介パンフレットより）

90分×2巻、60分×5巻

⑦ 日本語授業の実際（9月入荷予定）

このビデオ教材は、1年間にわたって実際の日本語授業を録画し、編集したものです。いわば「ビデオによる授業参観」です。（紹介パンフレットより）

全15巻

上記の VIDEO, LL の 7 点は, 3 F のカウンターで所定の手続きの上, ご利用下さい。

又, ご不明の点がございましたらお気軽に掛員におたずね下さい。

(雑誌・特殊資料掛)

本学教官等の寄贈図書を紹介します

本学の教官等より附属図書館が平成 4 年 4 月から 8 月半ばまでに寄贈を受けた資料を紹介します。本号から継続的に掲載する予定です。

寄贈者の方々に、紙上よりあらためて、お礼申しあげます。

寄贈者 寄贈図書

熊谷直一 論文集 花崗岩流動室内実験継続30年
記念 1991

宮崎市定 宮崎市定全集 2, 6, 10, 11, 19 1992

島 恭彦 戦後民主主義の検証 1970

河野健二 芸大好日 1992

笹嶋貞雄 物理地質学その進展 1991

小林哲也 Academic Policy in the Changing
World. 1991
ぶどうの木の下で：聖書歳々 1990

西田龍雄 Languages and History in East Asia.
1988
異境の民とオルドスの興亡 (NHK大
黄河第 2 巻) 1986
漢字文明圏の思考地図 1984
西夏文華嚴經 1, 2, 3 1975-1977
生きている象形文字 1966
西夏語と西夏文字 1961

(以上名誉教授：退官順)

カール・ベッカー

死の体験：臨死現象の探究 1992

「死ぬ瞬間」のメッセージ：ある少年
の臨死体験 1992

友田孝興 ゲーテとプラトン 1991

ゲーテと十八世紀 1990

古屋哲夫 満州国人事法令年表：大同元年(1932)
～康德 2 年(1935) 1992

礪波 護 中国：上 (地域からの世界史第 2 巻)
1992

山田慶兒, 田中 淡

「中国科学史国際会議：1987 京都シン
ポジウム」報告書 1992

梅田康弘 シンポジウム 内陸地震：発生の場と
物理 1992

小山直樹 Social Structure of Madagascar
Higher Vertebrates in Relation
to Their Adaptive Radiation.
1992

経済学部 急増する東アジアからの留学生と教育
・研究指導体制 1992
外国学校出身者および社会人大学院教
育に関する調査 1990

人文科学研究所

中国古道教史研究 吉川忠夫編 1992
五四運動の研究第 5 函 小野和子著他
1992

Patrons, Devotees and Goddesses.
田中雅一著 1991

胸部疾患研究所

大島駿作教授停年退官記念研究業績目
録集 1992

東南アジア研究センター

講座東南アジア学第7巻、別巻

矢野 暢編 1992

京都大学学術出版会

La Révolution Française et la

Littérature. 中川久定編 1992

個性の生態学 (生物学ライブラリ 1)

片野 修著 1991

流れと生物と：水産海洋学特論

川合英夫編著 1991

第23回日本医学会総会

第23回日本医学会総会 総会会誌 1-3

(1991京都 4/5-7) 1992

堀川哲男・文と人編集委員会

ときにはそれについて語ろう：堀川哲

男・文と人 1991

京都大学学士山岳会

梅里雪山事故調査報告書 1992

お 知 ら せ

マイクロフィルム化資料目録ができました

当館所蔵の古書籍等で撮影利用のあった3000件のネガフィルムの目録(カード体)を1階総合目録室の特殊文庫目録横に配備いたしましたのでご利用ください。

このフィルムのリーダープリンターでのご利用は3階雑誌・特殊資料掛へお申込みください。また、フィルムの複製および引伸印画作成については1階⑥カウンターへお申込みください。

(相互利用掛)

文献複写がカードでできます

京都大学文献複写相互利用制度(学内ILL・校費に限る)での当館所蔵資料の複写は従来から文献複写利用書(帳票)およびIDカード(XEROXカード)によってご利用いただいておりますが、本年5月から土曜日は、文献複写利用書での受付はいたしておりません。従ってIDカードによるご利用をおすすめいたします。

なお、IDカード作成は⑥カウンター相互利用掛へお申込みください。実費360円程度で所属部局コードごとに作成いたします。(相互利用掛)

冊子体の図書目録ができました

本学所蔵の和・洋図書の冊子体書名目録(平成4年8月1日現在でデータ登録されているもの)

を1階カウンター前に配備しましたので、土曜日などオンライン目録が使えない時にご利用ください。新着図書の冊子体目録は順次作成していく予定です。ご利用の際には、カード目録の検索もお忘れなく。(和書目録情報掛・洋書目録情報掛)

OPACのマニュアルが改訂されます

本誌Vol.27, No.2(90年10月)で紹介いたしましたTSSオンライン目録検索サービス(OPAC/TSS)を開始してから、まもなく2年になろうとしています。これは、附属図書館のデータベース上に登録された学内の図書・雑誌の書誌・所在情報を各研究室等のTSS端末から検索できるようにしたサービスです。

長らくの間、暫定版のマニュアルを利用いたしておりますが、このたび10月1日付でマニュアルを改訂いたします。内容・構成等も読みやすく、使いやすいものになるよう努力いたしました。なおOPAC/TSSのシステムに変更はございませんので、利用方法は今までどおりとなっております。

改訂版マニュアルをご希望の方、OPAC/TSSの利用を希望される方は図書館1階⑦番カウンターまでお申し出ください。

なお、次頁にOPACデータの登録状況一覧を掲載しましたので、検索時の参考としてください。

(参考調査掛・システム管理掛)

OPAC 所蔵データ登録状況

平成4年9月4日現在

部 局 名	図 書		雑 誌	
	件 数	備 考	件 数	備 考
附 属 図 書 館	104,610	開架図書及び	15,521	オンライン
文 学 部	9,863	昭和58年1月以降 和：平成2年4月以降 洋：昭和62年4月以降	4,915	
教 育 学 部	20,171	昭和61年4月以降	1,500	オンライン
法 学 部	24,270	昭和62年4月以降	2,838	
経 済 学 部	2,705	平成3年4月以降	1,811	
理 学 部	17,591	昭和61年4月以降	4,882	
医 学 部	560	平成3年4月以降	3,864	
薬 学 部	551	平成2年4月以降	529	
工 学 部	24,901	昭和61年4月以降	4,102	
農 学 部	10,299	昭和62年4月以降	3,857	オンライン
農 学 部 ・ 演 習 林 部	1,058	昭和61年4月以降	195	
教 養 部	28,279	和：平成2年4月以降 洋：昭和62年4月以降	2,792	
宇 治 五 研 究 所	1,369	平成3年4月以降	1,611	
人 文 科 学 研 究 所	8,849	和：昭和63年4月以降 洋：昭和62年4月以降	3,197	オンライン
胸 部 疾 患 研 究 所	178	昭和61年4月以降	188	
基 礎 物 理 学 研 究 所	1,936	平成2年4月以降	809	
ウ イ ル ス 研 究 所	654	昭和61年4月以降	111	
経 済 研 究 所	1,347	平成3年4月以降	684	
数 理 解 析 研 究 所	8,781	平成2年4月以降	1,012	
原 子 炉 実 験 所	376	平成3年4月以降	925	
霊 長 類 研 究 所	2,637	昭和61年4月以降	543	
東南アジア研究センター	13,234	昭和61年4月以降	544	
大型計算機センター	3,787	昭和61年4月以降	268	
ヘリオトロン研究センター	654	昭和61年4月以降	27	
環境保全センター	538	昭和61年4月以降	0	
情報処理教育センター	114	昭和61年4月以降	12	
超高層電波研究センター	110	昭和61年4月以降	35	
アフリカ地域研究センター	3,867	平成1年4月以降	0	
生体医療研究センター	201	昭和61年4月以降	0	
医 療 短 期 大 学 部	1,727	和：平成3年4月以降 洋：昭和61年4月以降	130	
大学院人間環境研究科	1,546	平成3年4月（創設）以降	0	
放射線生物研究センター	0		20	
農 学 部 ・ 農 場	38	昭和61年4月以降	0	
生 態 学 研 究 セ ン タ ー	80	平成3年4月（創設）以降	0	
入 力 合 計	296,881		56,922	

- ★アラビア語、中国語、東南アジアの一部の言語の資料は登録されていない場合がありますので、カード目録でも検索してください。図書備考欄の年月は図書を受け入れた日付です。
- ★OPACシステム休止時は冊子体目録で検索してください。
- ★和雑誌については昭和58年5月現在もしくは平成元年11月現在の、洋雑誌については昭和60年10月現在の所蔵状況が登録されています。なお、和雑誌は9月末日にすべて平成元年11月現在のデータに更新される予定です。
- ★雑誌備考欄に「オンライン」と記載されている部局は、所蔵情報が随時更新されています。

図書館の動き

平成4年度調査研究員の委嘱

附属図書館調査研究員の委嘱が、7月20日の附属図書館商議会において追加承認されました。「漢籍古抄本の研究」

文学部 興膳 宏 教授

電子計算機システム更新の準備

平成6年1月の附属図書館電子計算機システムの更新に向けて、図書館システム更新検討委員会を設置する予定です。今後、同規模大学図書館システムの調査、システム・ベンダー各社への資料請求、仕様書の作成、技術審査等を経て、新システムが選定されることになります。

新規採用職員の研修

7月20日から8月14日にかけて、附属図書館新規採用職員の館内研修が行われました。今年度の対象者は3名で、期間中他掛の業務に従事しながら、館内業務の理解を深めました。

協議会の開催

6月16日、第61回近畿地区国公立大学図書館協議会総会が本学で開催されました。会議のあと、前年度まで附属図書館の調査研究員を務められた文学部の御牧教授が「チベット大蔵経」について講演されました。(本号の巻頭記事参照)

目次

<巻頭記事>

チベット大蔵経..... 1

<資料紹介>

新しいAV資料がはいりました..... 4

本学教官等の寄贈図書を紹介します..... 5

<お知らせ>

マイクロフィルム化資料目録ができました... 6

文献複写がカードでできます..... 6

冊子体の図書目録ができました..... 6

O P A Cのマニュアルが改訂されました..... 6

後記

委員退任に際して一言、広報は表向きの記事を載せるのが使命と思いつつ、週刊誌のように裏面の記事を載せてみたい衝動に駆られました。(小)

自己評価基準検討委員会の設置

大学の自己点検・自己評価については昨年来各大学で取り組まれてきましたが、このたび、国立大学附属図書館の自己評価項目の設定等を目的とする特別委員会が国立大学図書館協議会に設置されました。近畿地区がその担当となり、当館からも1名が同委員会のワーキング・グループに参加することになりました。

日米ワンデイセミナー・第13回大学図書館研究集会の準備

前号でもお知らせしましたように、10月12日に京都外国語大学で標記のセミナーが開催されます。プログラムは下記のとおりです。

10:00 開会、挨拶

10:30 基調講演 Dr. Penniman

"Libraries and Scholarly Communication"

13:00 講演、報告、意見発表、討議

エレクトロニック・キャンパス

学術情報の国際流通

資料の保存

図書館サービスと著作権

18:00 懇親会

本学附属図書館が実行委員会事務局(753-2630)を担当して、現在準備を進めているところです。

<図書館の動き>

平成4年度調査研究員の委嘱..... 8

電算機システム更新の準備..... 8

新規採用職員の研修..... 8

協議会の開催..... 8

自己評価基準検討委員会の設置..... 8

日米ワンデイセミナー・第13回大学図書館

研究集会の準備..... 8

<その他>

O P A C所蔵データ登録状況..... 7

本号から編集委員に就任することになりました。やわらかな紙面づくりをめざしていきたいと思っています。(か)